

I 施設の概要		施設コード	S01-01-01			
施設名	荒川さつき会館					
所在地	荒川八丁目16番13号					
部課名	総務企画部総務企画課					
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容(単位:千円)			
	建築	平成元年	422,749	国・都	区債	一般財源
	増改築①					
	増改築②					
併設施設						
竣工年月日	平成元年4月1日		区職員	その他		
供用開始年月日	平成元年6月1日	職員数	4	0		
構造	鉄筋コンクリート造	階層	2階			
面積	敷地面積	2,209.16㎡				
	延床面積	1,499.58㎡				
設置目的・経緯	人権施策の推進を図るとともに、地域住民の相互交流及び自主的活動を促進し、区民生活の向上に寄与する					
関連部署						
根拠法令等 設置条例	荒川さつき会館条例					
駐車場の状況	5台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ		
駐輪場の状況	19台	対応状況	○ 点字ブロック	● スロープ		



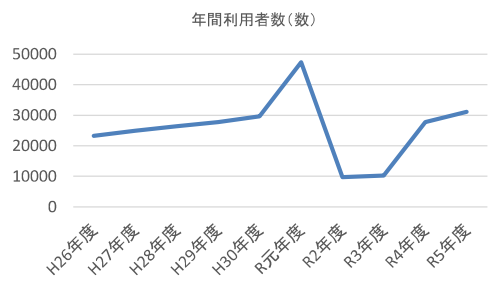
管理形態		その他	一部委託（管理業務・清掃業務）	期間	平成元年	から まで
事業内容	(1) 人権問題に係る啓発に関する事業 (2) 区民が相互に交流を深め、自主的な活動を進めるための場の提供に係る事業 (3) 区民の学習・文化活動及びスポーツの振興等に関する事業 (4) その他、区長が必要と認める事業					
	対象者	区内在住・在勤・在学の方（団体利用は事前の団体登録が必要）				
運営時間等	運営時間	午前９時～午後１０時				
	休日	原則として、年末年始（１２月２９日～翌年１月３日）				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	年間利用者数（数）	9,717	10,324	27,780	31,178	35,425
	年間利用可能日数（日）	212	147	348	350	340
	年間団体利用件数（件）	789	726	1,372	1,560	1,726
	部屋別団体利用回転率（％）					
	体育室	72	79	67	80	80
	会議室・講習室・視聴覚室・和室	8	10	8	8	12
に指定 する管理 等費用						
備考	令和２・３年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため利用者数等が減少したが、令和４年度は利用制限の解除等により、利用者数等が回復した。令和５年度は、登録団体の体育室利用件数が令和４年度に比べ１５０件以上増加したことにより、年間利用者数・年間団体利用件数が増加した。					

		勘定科目	R4年度	R5年度	差額			勘定科目	R4年度	R5年度	差額
行政コスト計算書	行政費用	給与関係費	12,257	12,589	332	行政収入	地方税等	0	0	0	
		物件費	12,784	12,173	▲ 611		国庫支出金	0	0	0	
		維持補修費	1,820	1,147	▲ 673		都支出金	0	0	0	
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0	
		補助費等	320	326	6		使用料及び手数料	1,010	1,104	94	
		減価償却費	12,196	12,196	0		その他	166	169	3	
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	1,176	1,273	97	
		賞与・退職給付引当金繰入額	621	1,589	968		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 38,822	▲ 38,747	75	
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0	
		行政費用合計(b)	39,998	40,020	22		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 38,822	▲ 38,747	75	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0				
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 38,822	▲ 38,747	75				
貸借対照表	固定資産	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	流動負債	勘定科目	R4年度	R5年度	差額	
		収入未済	0	0	0		還付未済金	0	0	0	
		不納欠損引当金	0	0	0		特別区債	0	0	0	
		その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	621	741	120	
		有形固定資産	1,146,295	1,134,099	▲ 12,196		その他の流動負債	0	0	0	
		土地	1,085,884	1,085,884	0		固定負債	5,348	6,096	748	
		建物	439,065	439,065	0		特別区債	0	0	0	
		建物減価償却累計額	▲ 378,654	▲ 390,850	▲ 12,196		退職給付引当金	5,348	6,096	748	
		工作物等	10,233	10,233	0		その他の固定負債	0	0	0	
		工作物等減価償却累計額	▲ 10,233	▲ 10,233	0		負債の部合計	5,969	6,837	868	
		無形固定資産	0	0	0		正味財産	1,140,326	1,127,262	▲ 13,064	
		建設仮勘定	0	0	0		正味財産の部合計	1,140,326	1,127,262	▲ 13,064	
		その他の固定資産	0	0	0		負債及び正味財産の部合計	1,146,295	1,134,099	▲ 12,196	
		資産の部合計	1,146,295	1,134,099	▲ 12,196						
備考	令和5年度は、電気単価減による電気料金の減や備品の購入がなかったため、物件費が減少している。また、大きな修繕がなかったため、維持補修費が減少している。行政収入のその他は、自販機の設置使用料収入やレザークラフト教室の参加費収入である。										

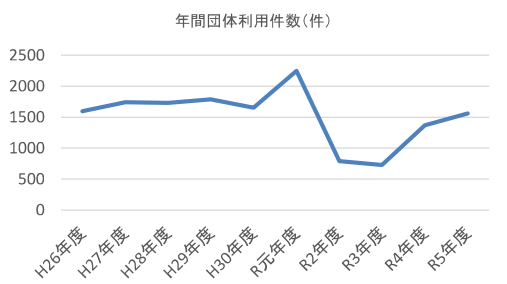
	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	81	84	87	89.3	
	1㎡当たりコスト(円)	27,096	35,319	26,673	26,687	
	人にかかるコストの割合(%)	35	28	32	35.4	
	受益者負担比率(%)	2	1	3	2.8	
	利用者1人当たりコスト(円)	4,182	5,130	1,440	1,284	
	開館1日当たりコスト(円)	191,665	360,299	114,937	114,343	
備考	令和4年度は、令和3年度の給水管改修工事及びトイレ便器洋式化等改修工事の完了等により年間のコストが減少している。一方で、令和4・5年度は年間利用者数や年間利用可能日数が増加したことにより、「利用者1人当たりコスト」や「開館1日当たりコスト」が減少している。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)						
目標指標	指標名・単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
	団体利用回転率	目標値 実績値	19	25	20	22	26
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()						
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無						
利用者・地域のニーズ	人権啓発の推進のための拠点、地域住民の相互交流及び自主活動の場として必要性は高い。						
現状・課題	○人権施策推進の拠点及び地域住民の相互交流としての会館づくり 人権問題に対する垣根を取り払えるような会館づくりを行うとともに、地域住民の相互交流の場としての役割を果たしていく必要がある。 ○利用率の向上 施設の利用率向上に向けて、更なる有効活用を図る必要がある。 ○施設の老朽化 開館から30年以上経過し、施設の老朽化とともに、施設内の設備や備品も劣化してきている。						
課題に対する現時点での考え	○人権施策推進拠点として、人権問題を身近な問題として考えてもらえるような啓発・相談事業を引き続き行っていく。また、地域の交流拠点としての在り方について検討していく。 ○体育室以外の各室の利用率向上のため、PR方法などを検討していく。 ○施設の老朽化及び施設内の設備や備品の劣化については、改修や修繕、買替え等を計画的に行っていく。						
議会、利用者等からの意見	平成22年1定 さつき会館のふれあい館化について						



令和5年度は、登録団体の体育室利用件数が令和4年度に比べ150件以上増加したことにより、年間利用者数・年間団体利用件数が増加した。



令和5年度は、登録団体の体育室利用件数が令和4年度に比べ150件以上増加したことにより、年間利用者数・年間団体利用件数が増加した。

I 施設の概要		施設コード	S01-01-02	
施設名	男女平等推進センター（アクト２１）			
所在地	東尾久五丁目9番3号			
部課名	総務企画部総務企画課			
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容（単位：千円）	
	建築	平成 8 年	国・都	区債
	増改築①			一般財源
	増改築②			
併設施設	熊野前ひろば館			
竣工年月日	平成 8 年 3 月		区職員	その他
供用開始年月日	平成 8 年 7 月	職員数	3	0
構造	鉄筋コンクリート造	階層	地上 3 階・地下 2 階	
面積	敷地面積	1031.56㎡		
	延床面積	1468.65㎡		
設置目的・経緯	女性の社会的地位の向上及び社会参画を促進し、男女共同参画社会の実現をめざすための拠点とする。			
関連部署				
根拠法令等 設置条例	荒川区立男女平等推進センター条例、同施行規則			
駐車場の状況	無	バリアフリー	●エレベーター	●トイレ
駐輪場の状況	50台	対応状況	●点字ブロック	○スロープ



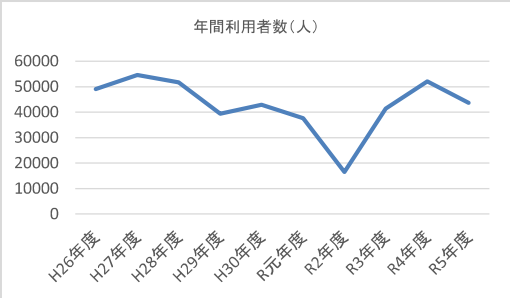
管理形態		直営	—	期間	— —	から まで
事業内容	(1)男女平等の推進に係る講演会及び講習会の実施に関する事業 (2)男女平等の推進に係る図書及び資料の収集並びに利用に関する事業 (3)男女平等の推進に係る相談に関する事業(4)男女平等の推進に係る団体及び個人の相互交流に関する事業(5)地域住民が相互に交流を深め、自主的な活動を進めるための場の提供に関する事業 (6)前各号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事業					
対象者	一般区民、男女平等推進団体、区職員他					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時				
	休日	年末年始、定期清掃日（年4回）				
施設基本データ等		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度（見込み）
	年間利用者数（人）	16,502	41,357	51,990	43,626	39,244
	年間利用可能日数（日）	301	355	355	355	355
	年間貸出施設利用件数（件）	842	1,795	2,493	1,606	1,776
	相談件数（件）	336	241	279	204	224
に係る管理等						
備考	年間施設利用者数の推移について、コロナ禍で2年度は2か月間休館及び6か月間交流コーナーの休止や施設使用制限のため、利用者数・貸出件数が減少した。3年度は2か月間コロナワクチン接種会場、4年度は創作室が1年間PCR会場となった(5年度5月上旬終了)ため、利用者数・貸出件数が一時的に増加した。					

[illegible]

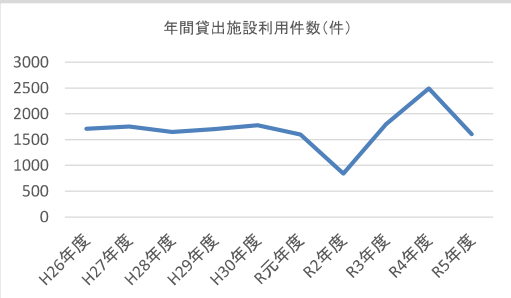
	指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	68	70	73	74.7	
	1㎡当たりコスト(円)	59,958	53,304	52,834	55,684	
	人にかかるコストの割合(%)	27	33	29	30.6	
	受益者負担比率(%)	1	4	6.0	5.2	
	利用者1人当たりコスト(円)	5,336	1,893	1,492	1,875	
	開館1日当たりコスト(円)	292,551	220,521	218,577	230,369	
備考	5年度は4年度に対し、1㎡当たりコストが2,650円増加、利用者1人当たりコストが363円増加、開館1日当たりコストが11,792円増加している。主な理由は、行政収入について4年度は年間を通じて創作室がPCR検査会場になるなど貸室利用や利用人数が一時的に増加していたことに加え、5年度は家屋修繕に係る維持補修費や工事費が前年度より多かったためである。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度(見込み)
	施設利用回転率(%)	20	34	48	32	36
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ● 現状維持	○ 民営化 ○ その他()	○ 他施設との統合	○ 廃止		
管理形態の変更の推移	○ 有 (変更内容:) ● 無					
利用者・地域のニーズ	男女共同参画に関する啓発・相談や男女共同参画の拠点として、区民相互の交流を推進する独立したコミュニティ施設を確保する必要性は高い。					
現状・課題	○事業や施設をよりPRできる方法の検討 令和3年度はコロナワクチン接種会場、令和4年度はPCR検査会場として利用したことに伴い、行政収入が増加した。これにより今まで施設を知らなかった人へのPRになった。最近では、今まで使用していた施設が工事で使えないという理由で利用する団体が増えている。区民相互の交流を推進するコミュニティ施設の役割も担っていることから、より広く区民に実施事業や施設をPRしていく必要がある。 ○施設の老朽化 有形固定資産減価償却率が年々上昇している。平成8年の開設から28年が経過し、経年劣化による修繕の必要箇所が増えているため、今後、大幅な維持補修費の増加が想定される。					
課題に対する現時点での考え	○施設を使用する新規団体について継続利用につなげていくとともに、利用件数・利用者数の増加を図るため、引き続き、新しい施策・PRを考えていく。 ○利用者の安全性や利便性を確保しながら、計画的に改修・修繕に取り組んでいくほか、老朽化に伴う緊急の修繕が必要になった場合は、迅速に対応していく。					
議会、利用者等からの意見						



2年度は2か月間休館や施設使用制限等のため、利用者数が減少した。3年度は2か月間コロナワクチン接種会場、4年度は創作室が1年間PCR会場となったため、利用者数が増加した。



2年度は2か月間休館や施設使用制限等のため、利用件数が減少した。3年度は2か月間コロナワクチン接種会場、4年度は創作室が1年間PCR会場となったため、利用件数が増加した。